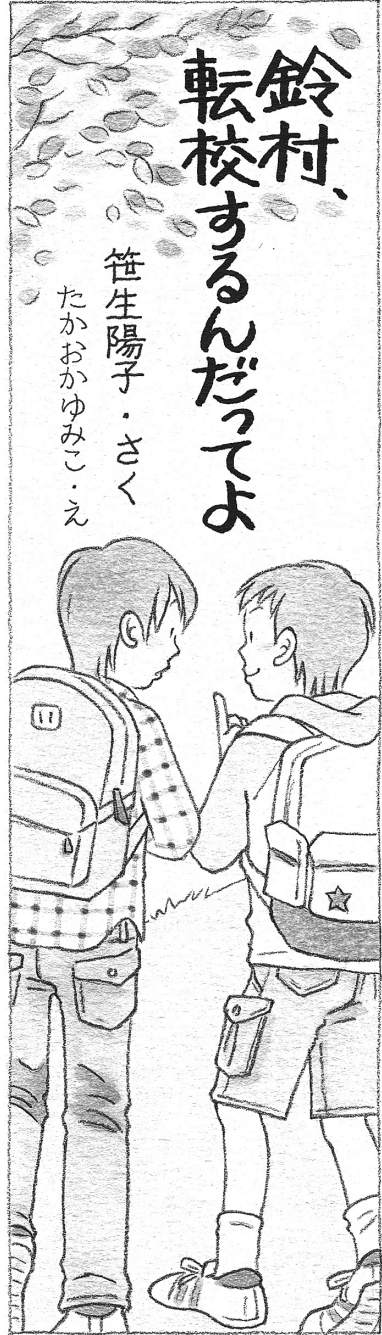


鈴村、 転校するんだってよ

笹生陽子・さく

たかおかゆみこ・え



クラスメートの鈴村が、もうじき転校するらしい。ぼくがそんなうわさを耳にしたのは、塾の帰り道でのことだった。

「うわさといっても、けっこう信用できるタイプの情報だから。ユウくんだけに、とくべつに教えてあげようかな、と思って」

情報源のトモくんは、自信ありげな顔でささやいた。

「これって、いちおうスクープだよな。トモくん、なんかかっこいい」

話を聞いて、まっさきにぼくが返した言葉は、こうだった。

トモくんとぼくはおさなじみで、家族ぐるみのつきあひもある。そろって塾に通いだしたのは、いまから二年く

らい前。この春、五年に進級した時、たまたまクラスもいっしょになった。鈴村とトモくんはおなじマンションに住んでいて、トモくんのおかあさんは、その自治会長をやっている。自分で建てた家とちがって、借りものの家を出る時は、大家さんと引越しのための打ち合わせをする必要がある。その情報がトモくんのおかあさんの耳に入って、トモくんの口からぼくに伝わったというわけなんだ。

「引越しまでに二か月あるから、いまは一部の人しか知らないはずだよ。この情報がホンモノだったら、そのうちばれると思うけど」

「ばれたら、みんな驚くかなあ」

「うん。まあちょっとは驚くかもね」

「お別れ会とか、やるのかな。あと、寄せ書きのプレゼン